

【今年度の取組目標等に関する自己評価】

1 学習指導

- ・教科内での定期的な課題共有により、観点別評価等の精度向上を図った。従来の評価方法との違いを理解するための研修等を実施した。
- ・ICTを活用した授業は、いずれも提示方法等に工夫が見られ、他者の参考になるものであった。
- ・希望者を対象として数学検定、英語検定等、複数の検定を実施した。
- ・校内の委員会を再編成し、組織的に探究の在り方を検討・実施した。その知見は令和5年度の活動に生かしていく。
- ・教員相互の授業見学は積極的に実施された。

2 生活指導（重点目標）

- ・遅刻延べ回数には若干の減少が見られたが、継続した観察が必要である。
- ・自他を尊重する態度について、各種集会の機会を捉えて生徒部及び学年から繰り返し生徒に伝えてきた。特別指導件数の減少等に一定の成果が見られる。
- ・防災教育研究指定校としての活動を充実させ、水難救助訓練等を実施した。
- ・予防のための各種講習の実施により SNS 等での大きなトラブルは発生しなかったが、自転車事故等をゼロにすることはできなかった。
- ・委員会の再編成により「生徒理解委員会」が発足し、生徒の情報共有に大きく貢献した。

・数値目標(カッコ内は昨年度の値)

年間遅刻延べ回数	: 7083 回(8147 回)
生徒の特別指導件数	: 5 件(新規[目標値 10 件以下])

3 特別活動・部活動（重点目標）

- ・体育祭・文化祭の方法を工夫し、十分な対策を行いながら実施した。
- ・制限はあるものの、部活動は活発に行われた。一方で加入率には大きな変化が見られなかった。
- ・希望者を中心としたオンラインによる国際交流は複数回行われ、生徒の意欲向上につながった。
- ・ボランティアの延べ参加人数には若干の減少が見られるが、地域からの感謝が複数寄せられるなど、良い成果が得られている。

・数値目標(カッコ内は昨年度の値)

部活動加入率	: 57.8%(55.1%)
生徒の学校行事(体育祭・文化祭) 満足度肯定回答	: 80.0%(新規[目標値 80%以上])
ボランティア活動への参加生徒延べ人数	: 138 人(164 人)

4 進路指導（重点目標）

- ・本校の特色のひとつであるインターンシップを計画通り実施した。生徒の進路意識の向上に大きな役割を果たしていると考えられる。
- ・これまでの「特進システム」を新たに見直し、希望進路の実現に向けて3年間を見通した計画を策定した。

- ・進路指導部と学年が連携し、計画的な個別面談や面接練習等の対応を丁寧に行ってきた。そのため、進路決定率は昨年度と上回っている。進路指導に関する生徒の満足度も良好である。

- ・外部試験結果の検証会議を複数回実施し、学校全体で生徒の状況理解に努めた。

・ **数値目標(カッコ内は昨年度の値)**

進路決定率	: 94.6%(86.3%)
進路指導満足度肯定回答	: 86.0%(84.0%)
夏季講習参加生徒延べ人数	: 535人(470人)

5 募集・広報活動

- ・ホームページの更新回数に大きな増加はないがツイッターを定期的に更新し、効果的な情報発信を行った。
- ・教員からの提案に基づいて対面による学校説明の回数を増やした。また、足立区主催の中高接続会議等の機会を活用し、中学校や塾と高校とのミスマッチ低減を図った。
- ・推薦入試の倍率は下がったが、学力検査の応募倍率は昨年度並みを維持していた。

6 学校経営・組織体制(重点目標)

- ・体罰、個人情報管理、会計等に関する事故はゼロを達成した。
- ・年休取得日数は目標値を超え、ライフ・ワーク・バランスの意識は定着しているものと考えられる。
- ・経営企画室との連携は良好であった。特に入学選抜においては経営企画室と教務部がお互いの業務を理解するための会議を新たに実施するなど、ミスを防ぐ体制が強化された。

・ **数値目標(カッコ内は昨年度の値)**

教員の年休取得日数の年間平均	: 14.0日(新規[目標値 10.0日以上])
1か月の時間外在校時間 45時間を超える教員数	: 11.1日(新規[目標値 ゼロ])
特別支援教育に関する委員会の開催回数	: 11回(10回)

【課題と改善策】

- ・観点別評価について、今年度の知見を生かして指導方法等の改善を継続する。
- ・生徒の所持しているPCの有効活用は引き続き検討を行う。校内の相互授業参観により、活用のすそ野を更に広げていく。
- ・コロナ対応による時差登校は3月末で終了となる。これまでより登校時間が早くなるため、遅刻回数の増加が想定される。生徒部と学年が中心となり、全教員による継続した声掛けを行っていく。
- ・部活動の組織率や部活動を中心とした学習会等には課題が残った。次年度も引き続き改善を行う。
- ・希望者を対象とした国際交流は令和5年度も継続する。新たに選択科目としてハングル語講座を開講したほか、夏に韓国への研修旅行を予定している。
- ・再編成した「特進システム」の成果を確認し、改善を図る。
- ・今後、中学校卒業生数は減少を続けていくため、学校PRと募集対策の充実を更に進めていく。
- ・年休取得日数等は目標値を超えているものの、職員間の格差は大きく、在校時間等が非常に長い職員が複数在籍しているため、継続して改善を促していく。
- ・既に資料の電子化等が一部進んでいるが、今後もペーパーレス等に取り組んでいく